

第3回 西区の温故知新！魅力アップ検討委員会 議事録	
日 時	平成24年2月17日（金） 10:00～11:30
開催場所	西区役所 3AB会議室
出席者	<p>【委員】大江 守之、岩崎 忠雄、金子 勝雄、林 和明、斉藤 攻、嶋田 昌子、渡辺 輝夫、山下 順三、茂木 重樹、竹谷 英樹、工藤 文昭、大石 恒夫、佐野 洋志 (敬称略)</p> <p>【オブザーバー】都市整備局都市再生推進課横浜駅周辺担当 同 都市再生推進課地域再生まちづくり担当 同 都市交通課都市交通経営担当 同 みなとみらい21推進課 文化観光局創造まちづくり課</p> <p>【事務局】副区長、西土木事務所長、地域振興課、区政推進課</p> <p>【コンサルタント】(株)都市・建築環境研究所</p>
開催形態	公開（傍聴者：無し）
議 題	<p>1. 「西区の温故知新!ひと・まち交流指針(仮称)」たたき台について</p> <p>2. 指針策定までのスケジュール</p> <p>3. 魅力アップ施策のモデル実施について</p>
議 事	<p>■主な意見</p> <p><u>1. 「西区の温故知新!ひと・まち交流指針(仮称)」たたき台（資料2）について</u></p> <p>（委員） 横浜駅西口振興協議会では、数年前まで西区と連携して西口界限で横浜カーニバルを実施していた。イベントでもみなとみらい地区は人を呼び込みやすいので、まち歩きやスタンプラリーなどのイベントを横浜駅周辺と一緒にできればいい。</p> <p>（座長） 横浜駅とみなとみらい地区の関係で、線路の西側も含めて地域のつながりを考える上でポイントとなりそうなところはあるか。最近、線路沿いに若いアーティストが集まっているとのことだが。</p> <p>（委員） 東横線の跡地活用がポイントではないか。</p> <p>（委員） 横浜駅東口からみなとみらい地区にかけてのルートは、西口に比較して商業集積が少なく無機質なイメージではあるが、頑張っって役割を果たしていかなければならないと考える。「エキサイトよこはま 22（横浜駅周辺大改造計画）」と連携して相乗効果が生み出せばいい。</p> <p>（座長） 「エキサイトよこはま 22」と連携することによる相乗効果は大きいと思う。</p> <p>（委員） ハードの整備は時間もお金もかかるので、現在あるものを土台としてソフトでよりつながりを持たせていくことが大事である。指針案の「魅力アップを実現するための手法」に示されているサイン計画は具体的で効果が大きいと思う。昔ながらの町からのサインも重要だが、新しい街からのサインも重要である。横浜駅からの動線はわかりにくい、色々な選択肢があるので、それを分かりやすくすることが必要である。サインと行事をリンクさせるとより効果的であると思う。また、海に面し、川が流れているなど、西区ならではの地域特性を活かした水上交通などによる魅力についても考えていく必要があるのではないか。</p>

(座 長)

今動いている中でのサイン計画、今後5～10年程度のスパンでのサイン計画を考えてみる必要がある。

(委 員)

横浜駅周辺をショッピング等で訪れる多くの来街者に対して西区の魅力をもっとアピールする必要がある。また、横浜駅周辺は「エキサイトよこはま22」により、これから長期間工事に入り、その間に区制70周年を迎える。魅力を継続していくにはどうすればよいのかを考える必要がある。

(座 長)

「エキサイトよこはま22」の工事期間は、どの位か。

(事務局)

8年程度と考えている。

(座 長)

どのように街が変貌していくのかを積極的に伝えていくことが大事である。来街者、働く人をどのように西区の魅力アップの取組に巻き込んでいくか。実現するための手法に、強弱、優先順位を付けていくことが必要である。

(委 員)

みなとみらい地区は既成市街地と接しており、横浜駅～みなとみらい～馬車道や野毛方面など回遊することができるのが魅力である。ただし、多くの方は西区の魅力をあまり知らないで、知らせていく必要がある。ここ数年、高島町地区が変わりつつあり、みなとみらい地区から平沼方面に回遊するためのサインやイベントなどがあればいいのではないかと。

(座 長)

動いている状況をどう捉えるかが大事である。ハードの整備が進められている間に、そのプロセスそのものを魅力に変えることができればよい。

(委 員)

住んでいる人、働いている人、訪れる人が同じテーブルにつくような仕掛けが必要である。他者を身内にする視点が重要で、そのための手法としてワークショップが有効である。また、最近横浜駅東口地下街ポルタに横浜三塔のガラスのモニュメントができたが、西区は、横浜中心部への通過点ではなく、入口であるという認識を持つことが大事である。また西区の特長である水面、川の活用ができるとういと思う。

(座 長)

ディズニーランドのように、公園内でボランティアが活躍すると公園に来る人が楽しむことができる。これを街中で行うことが出来ればよい。アートなど何か面白いものがあると、みんな面白いねということで、対等の関係が築けるといわれている。モデル事業の「さくらフェスタ」もそうなるとういと思う。また、定期的には難しくてもイベント等で川から見た西区という楽しみ方もあるのではないかと。

(委 員)

ハード面は難しいのでソフト面に対応する場合、イベントばかりになってしまうのはよくない。西区の歩んできた歴史を常設で見られる場所が必要である。例えば、初代横浜駅は今の桜木町駅の場所にあったということも知らない人が多い。西区に愛着が持てるように見せる工夫が必要である。

(座 長)

常設展示ということで、エキサイトよこはま22の工事期間の8年間に、仮囲いを使うとい

うアイデアがあってもよいのではないか。

(委員)

横浜道の歴史を活かすことが必要である。もっとそのことが地域住民にもわかるサインなどがあるとよい。浅間町は、昔からの住民が少なくなり、現在は、企業とワンルームマンションが多く立地した新住民の町となっている。こうした人達に、歴史ある街に住んでいることの誇りを持たせることが重要である。

(委員)

東横線跡地を防災面でも避難などに利用できる工夫が必要である。「自転車も通れる遊歩道」として整備するということだが、計画づくりにおいて、できるだけ障害物のない歩きやすい空間を計画してほしい。

(座長)

東横線跡地に対する関心が高いが、跡地が変わるまでに、防災面も含めてみんなでアイデアを出し合うことも楽しみの一つとなり、それ自体が魅力となるのではないか。

(委員)

外部の人にとっては、横浜駅東口、西口、みなとみらい地区は「西区である」という認識があまりないので、印象付けたい。野毛山を訪れたいという区民や来街者が多いが、平坦ではないため、高齢者には特にアクセス手段が問題となる。多くの人を呼び込むためには、電動自転車の設置や、川を利用した水上交通などの整備が必要である。

(委員)

最近の住民は、行事に参加したがるようである。しかし、声をかけることで人と人との関係が構築され、一緒にやっという機運も生まれる。みなとみらい地区との交流も含めて、西区の魅力をどのように発信していくかが重要である。

(委員)

西区は、いい街だが、観光資源に乏しい。西区に行ってみたいと思うような魅力あるものをつくらなくてはいけない。鶴見では、鶴見七福神を制定したようなので、西区七福神をつくらよのではないか。また、西区は、川の街、水の都である。最近は災害に目がいきがちだが、これを観光資源として活かすことで若者も参加するチャンスが生まれるのではないか。

2. 指針策定までのスケジュール（資料3）について

(委員)

みなとみらい地区、横浜駅周辺地区等で、それぞれ街の活性化等を目的とした指針があるようであり、西区の魅力アップを目的とした指針をつくるのであれば、それらの指針との整合を図る必要がある。

3. 魅力アップ施策のモデル実施（資料2）について

(事務局)

モデル実施施策の説明。

(事務局)

本日はありがとうございました。本日の議事録は、前回同様、事務局で作成後、次回の委員会で皆様に内容をご確認いただき、ホームページに公開していきます。

次回の第4回検討委員会は、3月19日の午前開催予定に向けて調整いたします。

(以上)

